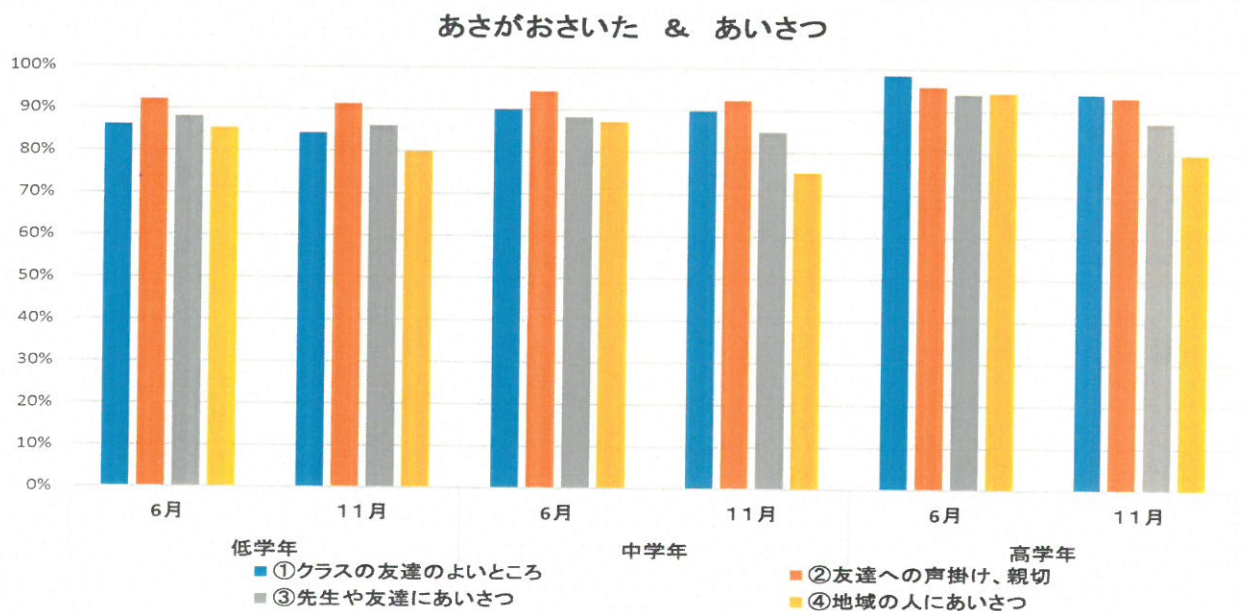


平成29年度 学校アクションプランの報告

◇アクションプラン1 (なかよくする子・きれいなこころの子)

重点課題	◆互いのよさを認め、協力し、主体的に活動する子供の育成 (「あさがおさいた」運動の推進等)
具体目標 数値指数	・「あなたは運動や勉強、係活動や委員会活動、しゅみなどで、クラスの人からみとめられることがある。」「あなたのクラスの人たちは、あなたに声をかけたり、親切にしてくれたりする。」と感じている児童の割合75%以上を目指す。
結 果 (A)	※ 達成率 (自己評価) ・クラスの友達のよいところ・すごいなあと 思うところを見つける。 90% ・友達に声をかけたり親切にしたりする。 92% ・相手に聞こえるように、友達や先生に挨拶する。 . . . 86% ・地域の人 (安全パトロール隊など) に挨拶する。 . . . 78%

「できたかな やったかな」児童アンケート結果



		低学年		中学年		高学年	
		6月	11月	6月	11月	6月	11月
あさがおさいた	①クラスの友達のよいところ	86%	84%	90%	90%	99%	94%
	②友達への声掛け、親切	92%	91%	94%	92%	96%	93%
あいさつ	③先生や友達にあいさつ	88%	86%	88%	85%	94%	87%
	④地域の人にあいさつ	85%	80%	87%	75%	94%	80%

<考察>

- 企画委員会で毎朝行っている「あいさつ運動」の立つ場所をいろいろな場所にして取り組んだところ挨拶が広がりよかった。
- 「あさがおさいた運動」と道德の学習と関連付けたり企画委員会が「週に1度はあさがおさいたポストに入れよう」と呼びかけたりした。このことより、運動に意識して取り組むことができたようだ。
- 人権集会の「ほわほわ集会」では異学年との交流のゲーム「よいところ見付け」を行った。異学年の人からほわほわ言葉（ほめる言葉）を言ってもらえることがうれしく、笑顔が広がった集会になった。人のよいところを認めるよい体験につながった。

課題として

- 自分から進んで挨拶をしないが、挨拶をされたら返すという子供が多い。自分から元気で明るい挨拶ができる子供が少ない。
- 「あさがおさいた運動」に強化して取り組んでいる時は、友達のよいところを進んで見付けカードを書いていたが、そうでない時は書く子供に限られてきているのが気になる。

対策

- ・ 「あさがおさいた運動」も子供たちの中に定着してきたが、来年度も継続していく。
- ・ 素直で明るい子供が多いが、挨拶がしっかりとできない、苦手な子供が多いので、挨拶に重点を置いて取組、挨拶を活性化させることで学校の雰囲気をもっと明るくすると共に、地域全体を挨拶いっぱい地域になるように目指す。
- ・ 家庭での挨拶も呼びかけていく。

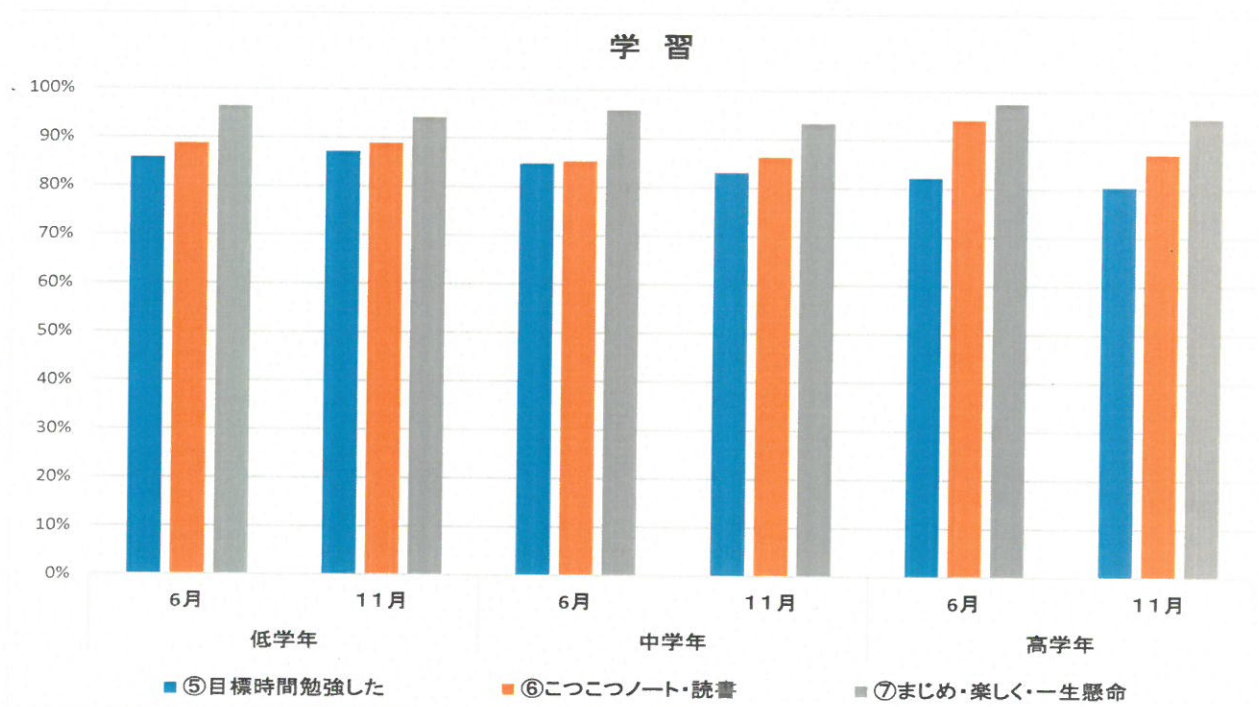
外部評価者（学校評議員）

地域だけでなく、家庭での挨拶も取組に入れていけばよいのではないか。朝の挨拶は家族から始まるのではないか。

◇アクションプラン2 (うんとかながえる子)

重点課題	◆ 家庭学習の習慣化 ◆ 学習規律の確立
具体目標 数値指数	・家庭学習（宿題＋自学）の学年達成目標時間の全校実施率80%を目指す。〈1・2年は20分、3～6年は10分×学年〉
結果 (A)	<p>※ 達成率（自己評価）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家で学年の目標時間勉強した。 84% ・ぐんぐんノートに取り組んだ。 または、読書に取り組んだ。 87% ・まじめに、楽しく、一生懸命に 学習に取り組んだ。 90%

「できたかな やったかな」児童アンケート結果



		低学年		中学年		高学年	
		6月	11月	6月	11月	6月	11月
学習	⑤目標時間勉強した	86%	87%	85%	83%	82%	80%
	⑥こつこつノート・読書	89%	89%	85%	86%	94%	87%
	⑦まじめ・楽しく・一生懸命	96%	94%	96%	93%	97%	95%

<考察>

- 今年から取り組んだ「こつこつノート」は新しいことをやるのではなく、同じ漢字や計算練習を何度もしたり週3回同じことを繰り返したりすることで力が確実に身に付いていく。「こつこつ」と取り組むという意味合いで今年から家庭学習ノートの名前を変更した。こつこつと取り組む子供が増えた。
- まじめに楽しく一生懸命に学習している子供がどの学年においても90%以上と高い結果であった。学習規律や学習態度がほぼ確立されていると思われる。

課題として

- 学習意欲の低い子供への手立てが十分でないことも見られた。進んで取り組んでいる子供とそうでない子供との差が大きくなっている。
- こつこつノートへの取組として「〇ページ行う」というものが見られた。ページ数をクリアすることが目的になっていないか内容の質の低下になっていないか教師の確認が必要である。
- こつこつノートの文字の確認が必要である。早く終わらせようと乱雑な文字になっていないか、必要に応じて書き直させることも大事である。

対策

- ・ こつこつノートは宿題以外の家庭学習の習慣化を図る取組の一つであるという意識で、意欲の低い子供には具体的に提示していきたい。
- ・ こつこつノートの取組内容例をノートに貼り、悩まずに進んで学習内容を決めることができるようにする。
- ・ 家庭学習が雑にならないように、教師の毎日の確実な点検を行いたい。また、あまりにも負担にならないような工夫したやり方を探りたい。

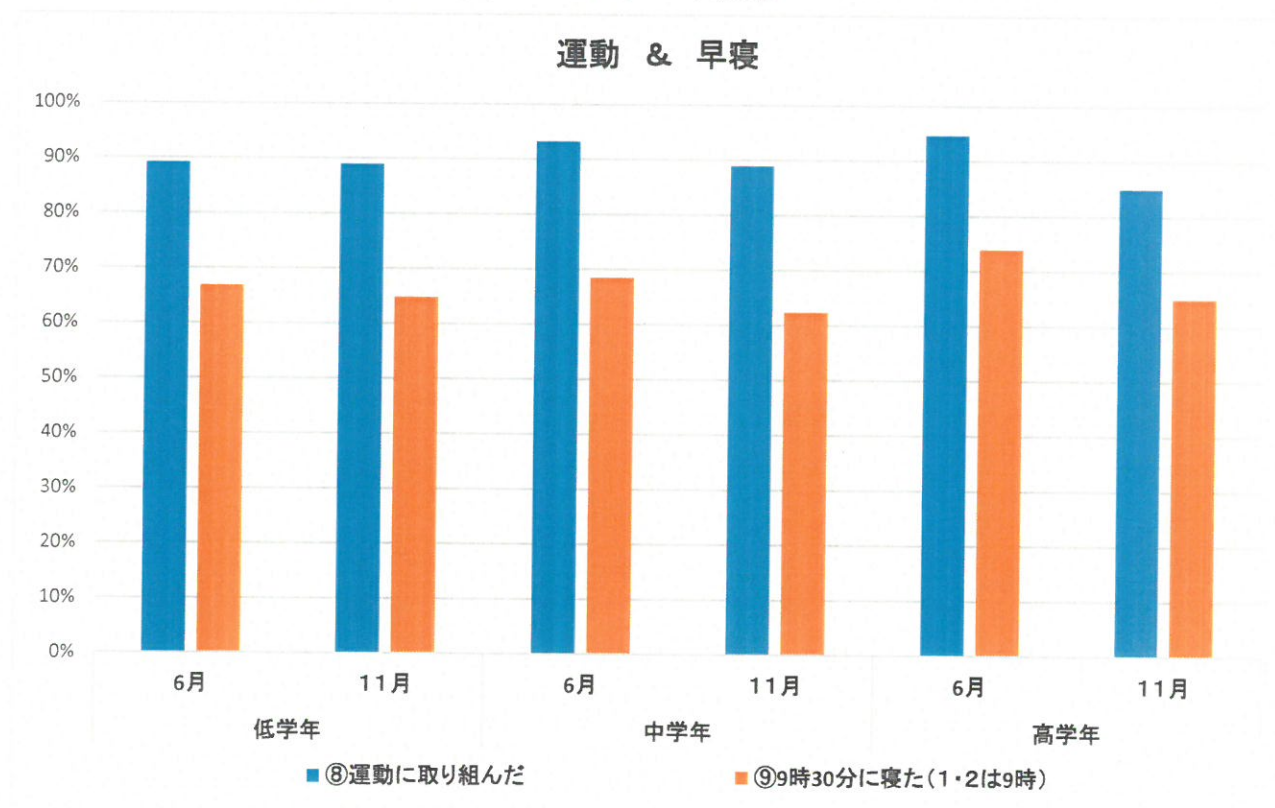
外部評価者（学校評議員）

- ・ 楽しく学習を進めているのはとてもよい。このまま継続して行って欲しい。
- ・ こつこつノートの学習内容が気になる。どのように進めているのか、友達の良いノートを見合うこともよいのではないか。保護者も参考に見てみたい。
→（こつこつノート展をフリー参観で行っている。また、常時フロアに展示している学年もある。よいノートを紹介して見せていきたい。）

◇アクションプラン3 (つよいからだの子)

重点課題	◆体力づくりの日常化<※学年の課題を捉え、改善を図る> (「みんなでチャレンジ3015」の活用)
具体目標 数値指数	・「みんなでチャレンジ3015」の達成率98%を目指す。
結果 (A)	・全校児童の達成率は 99%

「できたかな やったかな」児童アンケート結果



		低学年		中学年		高学年	
		6月	11月	6月	11月	6月	11月
運動	⑧運動に取り組んだ	89%	89%	93%	89%	95%	85%
	⑨9時30分に寝た(1・2は9時)	67%	65%	68%	62%	74%	65%

<考察>

- 「みんなでチャレンジ3015」は全校児童の達成率は99%で、昨年とほぼ同率の高い達成率であった。
- 朝の会での簡単な運動の継続により、体力づくりの日常化につながった。また、体力テストから見えた各学年の課題から、種目を工夫して取り組むことができた。
- 体育委員会の活動の中に大休憩に運動を企画している。低、中、高学年の異学年の集団で行うでのいろいろな友達と運動を楽しむことができている。
- 子供の自己評価「できたかな やったかな」の「運動をしている」と解答している子供が昨年より増えた。(昨年6月、11月低学年：87%、82% 中学年：86%、84% 高学年93%、90%)

		低学年		中学年		高学年	
		7月	12月	7月	12月	7月	12月
運動	⑧運動に取り組んだ	87%	82%	86%	84%	93%	90%
	⑨9時30分に寝た(1・2は9時)	65%	60%	63%	61%	70%	70%

(平成28年度の結果)

課題として

- 早寝については、昨年度よりどの学年も達成率は上がっているが、今年度高学年は11月になって10%近く下がっている。高学年は保護者の目が離れていく時期ではあるが早く寝ることの健康面等の効用を話していく必要がある。

対策

- ・ 運動を行う機会を今年度と同様に、朝の会、業間活動、大休憩、昼休みといろいろな動きや運動を行えるように取り組んでいく。
- ・ 早寝については、時刻設定が子供の生活実態からは難しい面があると思われるが県が推奨する望ましい就寝時刻で取り組んでいく。機会を捉えて、早寝早起きのよさを家庭や子供に伝えていく。

外部評価者 (学校評議員)

- ・ 体を動かした遊びを含めて、運動をよく行っているのはよいことである。
- ・ 就寝時刻は習い事していたりスポ少に行っていたりすると9時30分では難しいと思う。